

2014年展覧会スケジュール

変更となる場合もございます。

	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8
大展示室	第14回 私の愛する一点展 9/6~10/26		堀内康司展 11/1~1/18		収蔵品整理 のため休館		梅野記念絵画館の美展 2/14~3/29		林 俊衛展 4/11~6/28			
ふれあい館	浅野弥衛展 9/6~10/26		信州ゆかりの作家たち 11/1~1/18		収蔵品展 予定 2/14~3/12		みまき絵画会		青木繁テッサン展 4/11~6/28			未 定

【略歴】 堀内康司 (ほりうち・こうじ)

1932年(昭和7)東京生まれ。幼い頃に父がサイパン島で戦死、母も病死して孤児となる。両親の故郷・信州を愛し、絵を描きはじめる。松本で宮坂勝の絵画サロンに参加し、草間彌生らとグループ展に出品、初の個展も開く。1952年53年と国画会新人賞を連続受賞。上京後、フォルム画廊主の福島繁太郎の支援を受け、証券会社で株価を黒板に書く仕事をしながら創作活動を続ける。偶然、古書店にかかっていた池田満寿夫の絵を見出し、グループ「実在者」を、池田、真鍋博、鬚嘯と結成。仕事を辞め、堅い決意のもとに創作に専念。しかし2度のグループ展のち解散し、堀内は個展を数回開催するものの、誰にも理由を告げずに絵筆を折る。その後は、岩波書店の「世界」をはじめ雑誌のカットの制作、競馬記者として記事執筆、写真や挿絵の仕事をしながら、美術愛好家として浜田知明、藤牧義夫などの作品をもとめて多数所蔵。晩年は若い画家たちの作品を購入するなど、創作活動を支える。2011年逝去。

(画集『堀内康司の遺したもの』2013年求龍堂刊
表紙カバーより)

第一回木雨賞受賞

故・梅野隆氏の功績を讃えるべく創設された「木雨賞」は、画家・堀内康司の研究と画集編纂を成し遂げた芝野敬通氏に授与されました。



堀内康司 赤い木 1956年

■2014年イベントスケジュール

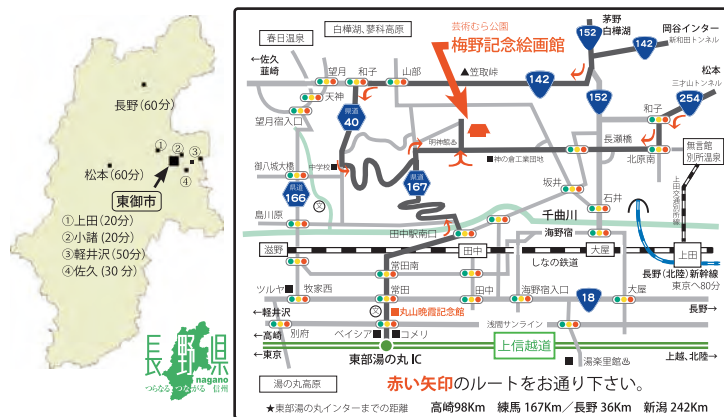
- 10月11日(土)~12日(日) 火のアートフェスティバル
- 11月15日(土) 堀内康司ギャラリートーク 13:30~
講演:芝野敬通氏(画集編集者)
- 1月18日(日) 新年のイベント・親睦会 13:30~
*変更となる場合もございます。詳細はお問い合わせください。

■施設情報、開館案内

東御市梅野記念絵画館 <http://www.umenokinen.com/>
〒389-0406 長野県東御市八重原 935-1
TEL0268-61-6161 FAX0268-61-6162 umenokinen@ueda.ne.jp
開館時間 午前9時~午後5時(4時30分迄にご入館ください)
入館料 800円(高校生以上)団体割引700円(15名以上)
身障者割引、学校利用減免、減額制度もあります。
休館日 11月4、10、17、25日 12月1、8、15、22日 1月5、13日
冬期休暇 12月24日~1月4日

■アクセス

- お車** 練馬ICから2.5時間
- 鉄道** 東京から最速2時間
しなの鉄道「田中」下車、タクシー15分
- ◆関東、北陸方面から
上信越道東部湯の丸インターから15分
- ◆関東、北陸方面から
北陸新幹線「上田」で、しなの鉄道乗換、田中下車。
- ◆中部、関西方面から
長野道岡谷インターから新和田トンネル、R142号経由で約1時間
- ◆中部、関西方面から
特急しなの号利用「篠ノ井」で、しなの鉄道乗換、田中下車



地域の情報をラジオで発信!
エフエムとうみ 78.5MHz

リクエスト、メッセージは
m@fomtomi785.jp



樹 1956年

忘れてはならない人がいます

堀内康司展

2014年 11月1日(土)~1月18日(日)
2015年

堀内康司展 ギャラリートーク
講演:芝野敬通氏(画集編集者)
11月15日(土) 13:30~15:00
同時開催:信州ゆかりの画家たち

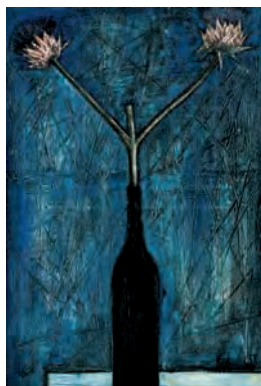


〒389-0406 長野県東御市八重原935-1 TEL.0268-61-6161 FAX0268-61-6162

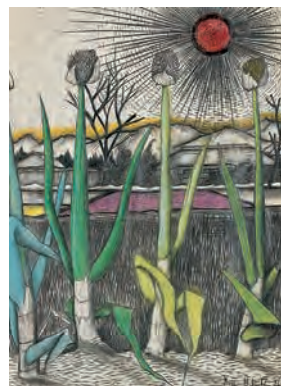
池田満寿夫を見だし、真鍋博、巒嘔らとグループ「実在者」を結成した画家は、なぜ絵筆を折り、若い才能の礎となったのか？——2013年秋に上梓された画集『堀内康司の遺したもの』の帯にはそう書かれています。

1932年に東京で生まれ、終戦を挟んで両親を失くし孤児となった堀内康司は、父のふるさと信州、松本で絵を描き始め、草間彌生らと創作活動を共にし、国画会新人賞を二度受賞しました。20代で東京、「実在者」の活動や自身の絵画制作に専念し、独特の線や色で描いていましたが、30歳で突然、絵筆を執ることをやめました。

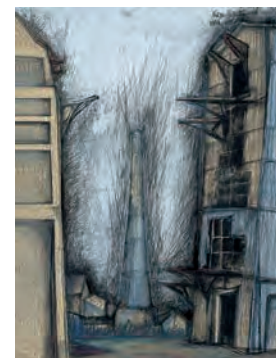
このたび、堀内康司の顕彰に尽くした一人の編集者の仕事と堀内美智子夫人の献身的な思いによって、長い封印を解かれた「画家・堀内康司」が注目を集めています。半世紀ぶりに並べられた作品の数々、その初々しい感性と燃えるような命のたぎりを受け止めて下さい。
(主催者)



花 1958年



ネギ坊主 1956年



放射する煙突 1954年



悲しみの人々IV 1954年



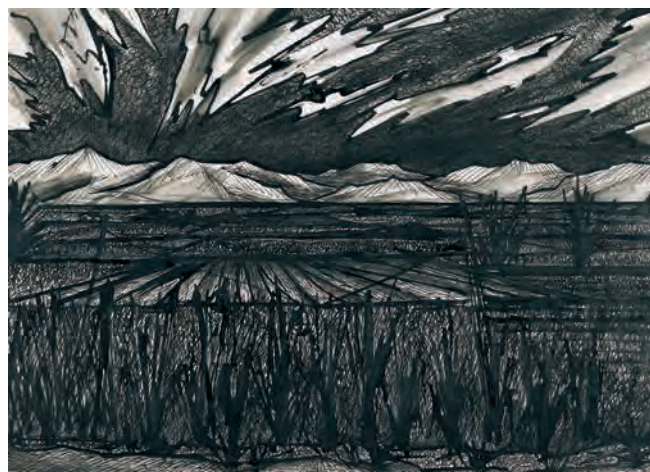
鴉の舞う風景 1954年



魚 1961年



1955年 王子にて 左から 真鍋博 堀内康司 池田満寿夫
(撮影 奈良原一高)



信州風景 1956年



煉獄 1952年